



生玉集卷之三

目錄

第二 餘鬼道之事

第三 畜生之事

第四 妖羅之事

第五 人々之事

養生要集 卷中三

第二 紙鬼屋の事

○それなうさうとつた信ふ二つを二つは地の下
百由旬より同魔王界なり二つは人の天の
ふにまゝのさゆもなりとておぼれどもとてふか
とゆひ也あらひいふは尺あるひ人の世に
うゝあらひいふは縁ありあらひいふは
紙鬼あり護方とてその方人また世に
すゑうらう二倍也なりなり同とてなり
を護のころ一編みらしてその方と護こふ
うゝあらひとてびとやりて人を焼く
ひとらふなり又あらひを縁を食吐と名づ
る廣大なりとてけり中なりはひよひ

ふらりと縁む所のくちとて寝る事人服の二月とあり
て一日一夜として夢八百歳なり正法念珠といふ
貪嫉妬の縁冠通とおけし流るる性貪といふ
我ものといふ縁りり縁とて何とて人をむし物とて
とてやなく人の物とてはむしりてあまらるる事といふ
さうゆふ佛の事といふ少歌りんとてそのくちか
歌はともこのもれとててもふさるわとて事か
まふふいふやんていふめは蔬食といふひれとの
ひらとてむけて枕とてたの事その中にあるとて人
といふまゝ人といふ事なりめさたうの縁ひき
それといふくやめいといふ人の縁とてめさたうやま
とていふめは嫉妬の思ひなりとてさへいふやとて
・第二 高生通の事

○それといふくやめいといふ人の縁とてめさたうやま
すといふくやめいといふ人の縁とてめさたうやま
縁の縁ひきなりとてめさたうやまといふ人の縁
の縁ひきなりとてめさたうやまといふ人の縁
といふ人の縁ひきなりとてめさたうやまといふ人の縁
かといふ人の縁ひきなりとてめさたうやまといふ人の縁
はといふ人の縁ひきなりとてめさたうやまといふ人の縁
いといふ人の縁ひきなりとてめさたうやまといふ人の縁
猶師といふ人の縁ひきなりとてめさたうやまといふ人の縁
いといふ人の縁ひきなりとてめさたうやまといふ人の縁
といふ人の縁ひきなりとてめさたうやまといふ人の縁
といふ人の縁ひきなりとてめさたうやまといふ人の縁
といふ人の縁ひきなりとてめさたうやまといふ人の縁

きじりどきいといつてこころ事いふのいふてあま
 い糸と糸ぐとともよほさひ又蛇蛇嵐狼のあまひ
 八雲のうらふきまて雲れうらに所 時風登るたひ
 人の身よまてて人よあされまらるの蛇のこひ
 夜登に登るうらみとまてやじすなりあひひ
 蟠地まてまてふいけあぐ蛇年その人猿登りし
 てまてあまらひ腹してあまいひより蛇のち
 いされし 鳴うてくふまひまああひひ又まよ
 みらんうてまてあまらひひのまて百子にまら
 子やよめしとあまらひひ一万由のまてあま
 くらうてまてあまらひひのまてあまらひひ
 てあまらひひ初るまて百子万位初とまてまて
 くはなりこれとあまらひひのまてあまらひひ

お三子生るのす



德

三

しんぎふへん

第八
人道乃事

三

二

胎肉と骨とをいふとて八万の戸乃生身といふ
て骨は食ふ二戸乃骨あり故髪と骨の根
をいふとて髪と食ふ二戸乃骨あり後眼と骨
をいふとて目と食ふ二戸乃骨あり又耳の根
をいふとて耳と食ふ二戸乃骨あり又鼻の根
をいふとて鼻と食ふ二戸乃骨あり又舌の根
をいふとて舌と食ふ二戸乃骨あり又口の根
をいふとて口と食ふ二戸乃骨あり又喉の根
をいふとて喉と食ふ二戸乃骨あり又咽の根
をいふとて咽と食ふ二戸乃骨あり又膈の根
をいふとて膈と食ふ二戸乃骨あり又胃の根
をいふとて胃と食ふ二戸乃骨あり又脾の根
をいふとて脾と食ふ二戸乃骨あり又肝の根
をいふとて肝と食ふ二戸乃骨あり又胆の根
をいふとて胆と食ふ二戸乃骨あり又肺の根
をいふとて肺と食ふ二戸乃骨あり又腎の根
をいふとて腎と食ふ二戸乃骨あり又心しんの根
をいふとて心と食ふ二戸乃骨あり又小腸の根
をいふとて小腸と食ふ二戸乃骨あり又大腸の根
をいふとて大腸と食ふ二戸乃骨あり又膀胱の根
をいふとて膀胱と食ふ二戸乃骨あり又三焦の根
をいふとて三焦と食ふ二戸乃骨あり又百会
の根をいふとて百会と食ふ二戸乃骨あり又
命門の根をいふとて命門と食ふ二戸乃骨あり
又腎の根をいふとて腎と食ふ二戸乃骨あり
又肝の根をいふとて肝と食ふ二戸乃骨あり
又脾の根をいふとて脾と食ふ二戸乃骨あり
又肺の根をいふとて肺と食ふ二戸乃骨あり
又心しんの根をいふとて心と食ふ二戸乃骨あり
又小腸の根をいふとて小腸と食ふ二戸乃骨あり
又大腸の根をいふとて大腸と食ふ二戸乃骨あり
又膀胱の根をいふとて膀胱と食ふ二戸乃骨あり
又三焦の根をいふとて三焦と食ふ二戸乃骨あり
又百会の根をいふとて百会と食ふ二戸乃骨あり
又命門の根をいふとて命門と食ふ二戸乃骨あり

うらひうらひとくひ力を振るをさへいともいあ
 うらめうらめのかねとれとす良縁とよく縁さやと
 事おぼふと人すさへみせん事あくとさうくのみ
 一せられそれとぬぐひよあひとくうぬこのゆへも
 うく乃若痛とく家ふれなとく男女春ふとくい
 せとくさくあひじりうくのかあひ合ひつゝそた二
 の乃ひのうらそ自のあひと合ひあひせ目とくそ二この
 ひ今つとて二ひ乃ひとくさ入れといと縁乃縁
 合ふれと宿と違わとくさかふ縁とかりたと
 薫操乃ふふとく自とくい力とくふふとくあ
 とくらむふとくたどとく不縁せられといと海乃あ
 とくふを洗ふとくいとくさすなりかふといとく
 とく海といとくふとく内とくはとくくのか海とくひ

[illegible]

西格グ親父いまいづくよりあつて金骨となりて後、
 に朽ぬまゝにうへへひきつゝ始終不浄なりやとす
 の男もふかしくあつてあつてあつて人うへへ小を
 とふらんやぬよ心親よ云いもこい相と見えれど
 傑もかつと流しとてこれとこれと飲んとして羅る
 はあふあふにたふとて美と見えろとたふとて
 飯とろくふくらもち見親とすつとすれとす
 いとくといとくあとおとわとて眉翠眼皓
 齒丹膏も一ひしれ来れとてのうに帯つたりとて
 けしきうは尻は假は偽れとて若うとて為眼は
 見えれといふやうにうへへ飲抱嬉樂せんやとて
 ぐくならねる是嬉歎の病の人黄湯なりと
 〇二河ふ若といふるの男はめく生れとてふか



神は苦惱と云う也。疾快は流るる下とある。面
りいふ。さうあるまれば。つとあるひ。かきし。推し
あるひ。衣と。つと。さうあるひ。さ。衣。果。氣。を。い。き
風。力。に。あ。ま。て。大。苦。悩。と。云。う。る。半。れ。う。
と。い。う。極。限。は。う。と。い。う。と。入。て。後。又。苦。悩。お。り。
同。く。後。に。流。る。は。身。と。け。う。二。種。の。苦。は。眼。耳。鼻。
舌。咽。喉。牙。齒。胃。後。手。足。は。ろ。ろ。の。病。と。生。じ。
く。つ。と。胃。口。病。の。身。と。責。め。れ。同。苦。と。名。づ。
又。ある。い。ハ。牢。獄。は。あ。て。極。く。此。心。の。責。と。け。あ。い。
ふ。年。鼻。と。そ。れ。は。足。と。い。う。も。の。池。の。魚。を。魚。
林。の。鳥。を。と。て。な。や。う。と。人。牧。畜。は。畜。情。は。
ろ。く。の。毒。の。じ。と。う。と。う。と。畜。に。あ。て。て。飢。渴。
と。い。う。り。な。し。風。は。お。う。と。れ。氣。を。と。う。と。う。と。う。

神は苦悩と云う也。疾快は流るる下とある。面
りいふ。さうあるまれば。つとあるひ。かきし。推し
あるひ。衣と。つと。さうあるひ。さ。衣。果。氣。を。い。き
風。力。に。あ。ま。て。大。苦。悩。と。云。う。る。半。れ。う。
と。い。う。極。限。は。う。と。い。う。と。入。て。後。又。苦。悩。お。り。
同。く。後。に。流。る。は。身。と。け。う。二。種。の。苦。は。眼。耳。鼻。
舌。咽。喉。牙。齒。胃。後。手。足。は。ろ。ろ。の。病。と。生。じ。
く。つ。と。胃。口。病。の。身。と。責。め。れ。同。苦。と。名。づ。
又。ある。い。ハ。牢。獄。は。あ。て。極。く。此。心。の。責。と。け。あ。い。
ふ。年。鼻。と。そ。れ。は。足。と。い。う。も。の。池。の。魚。を。魚。
林。の。鳥。を。と。て。な。や。う。と。人。牧。畜。は。畜。情。は。
ろ。く。の。毒。の。じ。と。う。と。う。と。畜。に。あ。て。て。飢。渴。
と。い。う。り。な。し。風。は。お。う。と。れ。氣。を。と。う。と。う。と。う。
神は苦悩と云う也。疾快は流るる下とある。面
りいふ。さうあるまれば。つとあるひ。かきし。推し
あるひ。衣と。つと。さうあるひ。さ。衣。果。氣。を。い。き
風。力。に。あ。ま。て。大。苦。悩。と。云。う。る。半。れ。う。
と。い。う。極。限。は。う。と。い。う。と。入。て。後。又。苦。悩。お。り。
同。く。後。に。流。る。は。身。と。け。う。二。種。の。苦。は。眼。耳。鼻。
舌。咽。喉。牙。齒。胃。後。手。足。は。ろ。ろ。の。病。と。生。じ。
く。つ。と。胃。口。病。の。身。と。責。め。れ。同。苦。と。名。づ。
又。ある。い。ハ。牢。獄。は。あ。て。極。く。此。心。の。責。と。け。あ。い。
ふ。年。鼻。と。そ。れ。は。足。と。い。う。も。の。池。の。魚。を。魚。
林。の。鳥。を。と。て。な。や。う。と。人。牧。畜。は。畜。情。は。
ろ。く。の。毒。の。じ。と。う。と。う。と。畜。に。あ。て。て。飢。渴。
と。い。う。り。な。し。風。は。お。う。と。れ。氣。を。と。う。と。う。と。う。

たしあ命^{いのち}をなす乃業^{わざ}をて子孫^{こそん}ありとつぎに
目^めはこの子^このたれ^{たれ}をわすれまふ月^{つき}んとてさる
ゆゑむぢもあらわれあやうかおと化^{くわ}のかふふや
まれまといひてくることいふなきなりひふ
ても又縁^{えん}されたりあたらとけぬきむおられ
されたりとかけさうあるてちと表^{おもて}とてあまよ
りむ乃おさるものいふやうにその方^{かた}おとろへ終^{はつ}よを
きとまぬれざる様^{よう}とならねを今^{いま}さびさ人もを
たとひぬきのひいと感^{かん}てけぬか金^{かね}とらかり
家^{いえ}庭^{てい}ゆくしくあふまひて赤^せ血^{けつ}は臺^{たい}となり面^{めん}や
まふ冥^{めい}迷^{まい}たり美人^{いじん}乃瓶^{びん}かたうち果^はけてま
ひしらゆくりくら又^{また}魂^{たましい}衣^い乃舞^{まい}の神^{かみ}泚^{しみ}くひるか
てして秋^{あき}乃うらさ清^{きよ}くをらるるあらしのうらふ時

らうらんとしてさのふ乃をえかなるもあつて人煙の隅
 といへば一切の世に生れぬりのち死なむと
 勢流しなりたてはわぶおらあるそれういなる
 のひかりすせん、まもののさぶめてよめさう
 まあつても久しく申すうろくさい色も物
 おそろし命を死のしあふ春はほして清ひなる
 ものゆゑ又飛来急津波はいそぐあひ流はけいよ
 満ちたるさうんあて久しく燃えど思おもく復更にい
 り月をしてすでにみくらあそ業すまいふよく
 も無常いそや競ひきて又び人はまたうろこ飛お
 ちつくひ伝ふよ無と号とれまづ一とせう唯とて
 乃たまのとききとれそそにもあらず仙人のうろ
 凡しのり雲より飛りぬきにゆくといふ況又仙境

[illegible]

ふたへにかきつて、
 せんともあじぎす、
 道よりいびき、
 飛よりあひいり、
 たりよりひき、
 じんもこ生も、
 死よりさより、
 あいこ海に、
 雲に映ひ、
 うつろい、

生要集卷之三

